

バリアフリー観光相談窓口の設置に向けた庁内検討会 概要

日時：平成30年10月22日（月）13:30～14:30

場所：本町ビル4階 B室

出席者：別添のとおり

概要：

- 「バリアフリー観光推進事業について」 別添資料に基づきおもてなし課から説明
 - 「バリアフリー観光推進関連施策庁内とりまとめ結果について」 各部出席者から説明
- 【地域福祉部】

- ・ボランティアによる付き添いは500円/回。
- ・車いすの貸し出し実績は48台（H29）、81台（H28）、105台（H27）。
- ・ボランティアによる付き添いは86回（H29）、176回（H28）、165回（H27）。
- ・最近では県外客の利用も増えているが、補助事業の趣旨を逸脱するものではないと認識。

【文化生活スポーツ部】

- ・設置年数が経過したことにより県民体育館のトイレを改修。
- ・このほか高知城歴史博物館等では施設内で車椅子やベビーカーの貸し出し可能。
- ・県立文学館では研修を受講していると聞いている。

【中山間振興・交通部】

- ・公共交通活性化支援事業ではバス車両の導入を補助しているが、導入する車両は低床車両なので必然的にバリアフリー対応となる。

【土木部】

- ・都市公園のバリアフリー化については東京オリ・パラまでに50%のトイレの洋式化を目指している。H31、32年度10基ずつ改修することで目標を達成する計画。
- ・このほか利用者からの要望等を指定管理者に聞き取り、順次対応を進めている。
- ・道路におけるバリアフリー化については高知駅から県庁、かるぽーと周辺までの区域について平成15年に基本構想ができ、整備を進めてきた。国、県管理の道路については整備が完了しているが高知市管理の道路の一部の整備が残っている。

■質疑応答

Q：運営体制の想定はあるのか

A：他県では観光連盟やNPO等の民間事業者が運営するパターンが多くあるがそこも含めておもてなし県民会議バリアフリー観光推進部会にて検討していきたい。

Q：愛媛県に「四国バリアフリーツアーセンター」があるが相談対応の範囲は四国全体なのか。

A：現在のところ本拠地の新居浜市周辺であると聞いている。

Q：観光客から見ると「高知」といえば「四国」となるので四国を巡る観光客のニーズに対応できるよう、連携等していくのか。

A：まずは高知県での態勢を整えることに取り組む。例えばNPO法人日本バリアフリー観光推進機構などはネットワーク構築に取り組み始めているところはある。

Q：「バリアフリー観光相談窓口」は統一された組織なのか。

A：基本的にはそれぞれが独立して運営。相談対応や調査方法を共有しているところはある。

Q：バリアフリー観光相談窓口では観光来方のみを対象として相談対応を行うのか。スポーツ合宿などで来県する方は対象としないのか。

A：一義的には観光のための相談窓口であるが、相談があればスポーツや修学旅行、MICEなどの目的でも対応する。

Q：道路のバリアフリー化手法はどのようなステップか。

A：拡張、段差の解消、点字ブロックの3パターンと思われる。

Q：高知県でのバリアフリー観光相談窓口は全県を対象としたものとなるのか。

A：現在、全県的に調査を進め情報収集・蓄積を進めている。この情報をまずはハブとなる観光案内所と共有することで、全県的に案内ができるような形をとることができればと考えている。